ISSN 2187-7270

大阪大学
アーカイブズニューズレター

OSAKA UNIVERSITY ARCHIVES

第18号　2021.09.30

目次：

湯川秀樹と大阪大学	1	業務日誌（抄）（2021年３月～2021年８月）	7
湯川秀樹、学位申請の記録（1937－1938）	2	利用案内　等	8
大学創立周年記念展「街に生きる学問ー学都大阪の礎・つなぎあう想いー」の開催	6		

写真提供：大阪大学湯川記念室

湯川秀樹と大阪大学

日本人初のノーベル賞受賞者として湯川秀樹は著名であるが、京都大学のイメージをお持ちの方も多いであろう。しかし、若き日の湯川は大阪帝国大学に奉職し、その時代の業績でノーベル賞を受賞し、大阪帝国大学から理学博士の学位を授与された。具体については、細谷裕『湯川秀樹博士と大阪大学　ノーベル賞はかくして生まれた』（大阪大学出版会、2021年）に詳しい。同書では、学位授与について大阪大学アーカイブズ所蔵資料が使用されている。本紙２～５ページを参照されたい。

（菅　真城）

湯川秀樹、学位申請の記録(1937 - 1938)

大阪大学名誉教授 細谷 裕

日本人として最初のノーベル賞に輝いた湯川秀樹の中間子論は、当時、大阪中之島にあった大阪大学（旧大阪帝国大学）理学部にて誕生し、この中間子論の論文により湯川秀樹は大阪大学より理学博士の学位を取得した。大阪帝国大学時代の湯川は凄まじかった。研究者、教育者として試行錯誤の格闘を繰り広げ、残されたものには独自の美意識が感じられる。こんな素晴らしい人、研究者がかつて大阪大学で躍動していた。そのことを大阪大学の学生、教職員、そして市民の方々にも是非知ってもらいたい。

2021年大阪大学は創立90周年を迎えた。その記念事業の一環として2020年１月私は湯川博士と大阪大学についての書籍を取りまとめるよう依頼された。こうして2021年５月に刊行されたのが「湯川秀樹博士と大阪大学　ノーベル賞はかくして生まれた」（細谷裕著、大阪大学出版会）である。湯川秀樹は1933年５月大阪帝国大学理学部兼任講師、翌年４月には専任講師、1936年には理学部助教授となり1939年５月京都帝国大学に移るまで大阪帝国大学で活躍する。この間、湯川は計算ノート、講演原稿、論文原稿、手紙、学会談話会プログラムの全てを整理して残した。それらは現在、京都大学基礎物理学研究所湯川記念館史料室で保管されている。

湯川は大阪帝国大学で執筆した最初の論文「On the Interaction of Elementary Particles. I」を主論文、その後1935年から1937年に書いた９編の論文を参考論文として1937（昭和12）年11月15日、大阪帝国大学に学位（理学博士）を申請し、1938（昭和13）年４月５日、大阪帝国大学より学位が授与される。

1949年湯川はコロンビア大学（ニューヨーク）客員教授となった。2014年春、そのとき湯川が居室で愛用していた黒板がコロンビア大学から湯川理論が誕生した大阪大学に移設されることになった。2014年５月13日、南部陽一郎大阪大学特別栄誉教授、湯川秀樹博士の御子息の湯川春洋(はるみ)氏、平野俊夫大阪大学総長らの出席のもと理学研究科にて「湯川秀樹先生愛用の黒板披露式典」が執り行われた。この折、湯川の学位申請に関わる史料を調査し、提出された学位論文そのものは大阪大学総合図書館（豊中キャンパス）に保存されていることがわかった。さらに学位授与の記録がどこかに残されているはずだとの指摘を岡村康行理事・副学長から受け、大学本部の方に探していただいた。その時、本部事務倉庫から見つかったのが「昭和十三年四月五日　第五八四号　湯川秀樹」と記された大阪帝国大学学位授与者名簿である。しかし、この時私がいただいたのはスマホのカメラで撮られた白黒の写真２枚のみであった。

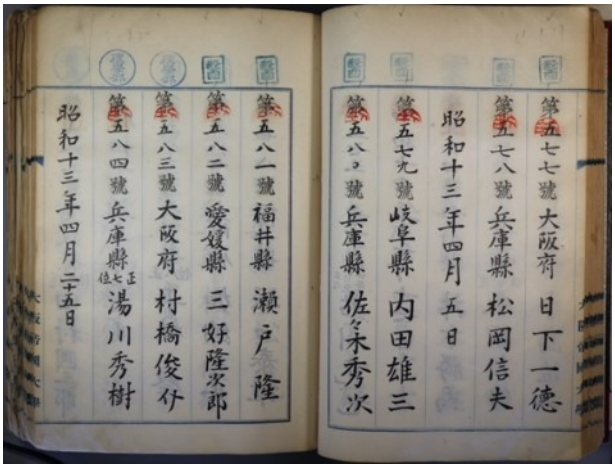
2020年秋、前述の書籍「湯川秀樹博士と大阪大学」の執筆が佳境を迎え掲載する写真等を取り揃えている中、私は大阪帝国大学学位授与者名簿の湯川秀樹が記載されているページと台帳の表紙のカラー写真が必要と判断し、共創推進部社会連携課の方々に本部事務より写真データを取り寄せていただくようお願いした。ここから全く予想しなかった展開が始まった。

まず判明したのは、学位授与者名簿はこのとき本部事務にはなく、学位記関係については教育企画課が担当しているとのことだった。しかし教育企画課に問い合わせてもらったところ、学位記台帳は現在大阪大学アーカイブズに移管されていることが判明した。

そこでアーカイブズに書籍の趣旨を説明し、学位記台帳の閲覧及び写真撮影をお願いした。大阪大学アーカイブズの菅真城教授は快く了解してくださり、湯川秀樹の学位申請に関する史料を探し出してくださった。こうして目の前に現れたのが「昭和六年以降 学位授与者名簿 大阪大学」と「昭和十三年　其一 第八類一項一号学位」の史料である。

学位記授与者名簿には昭和六年以降の記録がまとめられている。表紙は戦後に取り付けられたものである。湯川に関する記述が載っている箇所には

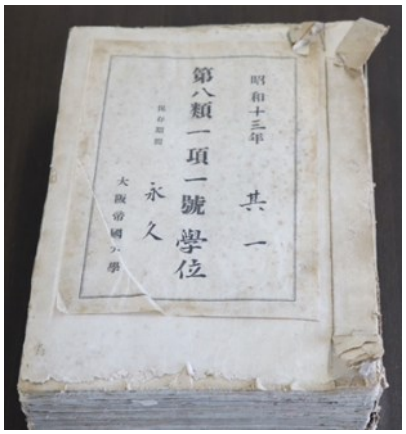
昭和十三年四月五日
第五八四号 兵庫県 正七位 湯川秀樹
と毛筆で記されている。湯川はこのときすでに「正七位」の称号を受けていた。「第五八四号」に朱の割印が押され、上部に青色の理学部の印がある。



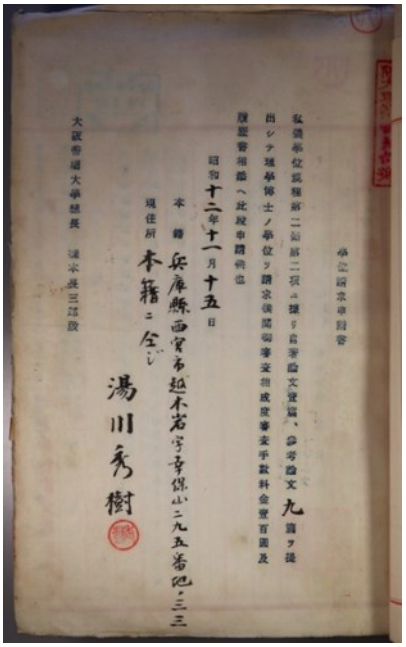
大阪大学 学位授与者名簿
左は戦後取り付けられた表紙カバー、右は湯川秀樹への授与記録が記された原本ページ

菅先生が発掘してくださったもう一つの書類の束「昭和十三年 其一 第八類一項一号 学位」は当時の事務作業、大学の組織や運営の構図を物語る極めて貴重な史料である（[学位１]）。その内容に私は圧倒された。学位申請から学位審査、学位授与決定に至る過程の全ての資料が保存されているのである。戦火を免れ、無事現在まで生き延びてくれたことに感謝するしかない。表紙には、「保存期間　永久」と記されている。長い年月とともにぼろぼろになりつつあるが、収められた書類の保存状態はきわめて良い。

一つ一つの書類を見ると面白い。1930年代の日本の姿、大学の様相が蘇る。[学位２]は湯川が大阪帝国大学総長に提出した学位請求申請書で、論文、履歴書のほかに審査手数料金壹百円を相添えるとある。多額の手数料金であった。



[学位1]「第八類一項一号　学位」学位申請、審査に関する書類がまとめられている。



[学位2] 湯川が大阪帝国大学総長に提出した学位請求申請書

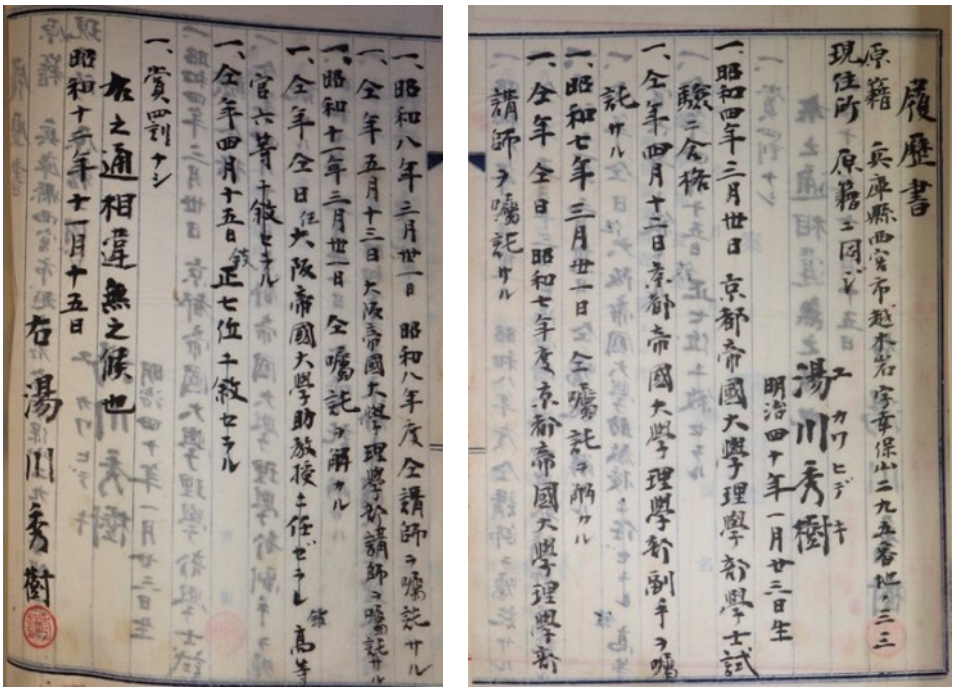
学位請求申請から学位授与にいたるまでの過程は以下の通りである。

学位請求申請	1937年11月15日
論文審査着手	1937年11月15日
理学部教授会議決	1938年２月17日
総長より文部大臣への学位授与申請	1938年２月25日
学位授与	1938年４月５日

学位請求申請は総長宛に提出され、即刻流れ作業のように、総長から理学部教授会に審査の要請がなされた。手続きは万端に準備されていた。

学位請求申請にあたり提出された湯川の履歴書も非常に興味深い（[学位３]）。原本は毛筆で記され、事務部は活字になおしたものも用意した。毛筆の原本は均整のとれた美しい書体で綴られており湯川の書道の素養が滲み出ている。原籍（本籍）は「兵庫県西宮市越木岩字幸保山295番地ノ33」である。この本籍は郵便宛先には滅多に使われず、湯川は「西宮市苦楽園」または「西宮市苦楽園バス停留所の前」で代用していた。

履歴には、「昭和８年５月13日、大阪帝国大学理学部講師ヲ嘱託サル」、「昭和11年３月31日、大阪帝国大学助教授ニ任ゼラレ」、「同年４月15日、正七位ニ叙セラル」とある。よく見るといくつかの書き込みがあるが、これは事務部が活字文書を用意する際、例えば「正七位ニ叙セラル」の部分は「叙正七位　宮内省」と記録されることを意味する。

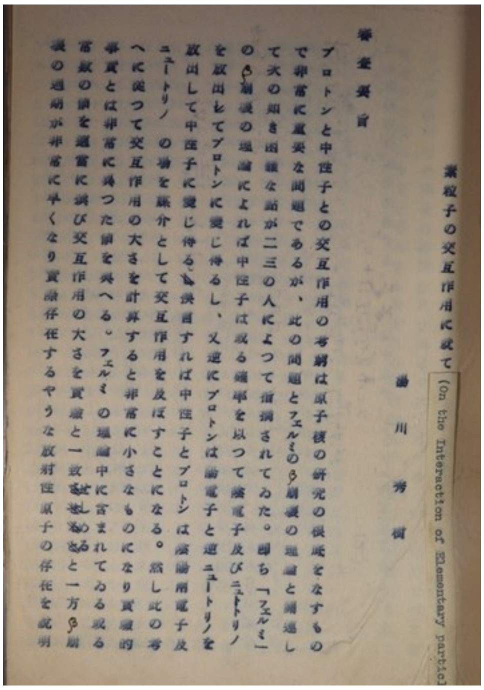


[学位3] 湯川自筆の履歴書

論文審査が開始される。当時の理学部は物理、化学、数学の３学科よりなり、合わせて14名の教授で構成されていた。そのうち物理の教授は５名である。審査員は菊池正士（主査）と岡谷辰治が務めた。菊池がまとめた審査のまとめ（審査要旨）は４ページにわたり、学位論文の詳細な分析と評価をなしている（[学位４]）。

学位請求申請にあたり、湯川は主論文、参考論文九篇の一覧リストを縦書きの日本語で用意した。主論文のタイトルは「素粒子の相互作用に就て（英文）」となっているのだが、菊池がまとめた審査要旨ではタイトルは「素粒子の交互作用に就て」となる。自分の言葉遣いを守り抜く菊池正士の姿が目に浮かぶ。

審査要旨の最終ページで述べられる菊池の評価が興味深い。湯川の「論文の第一の意義はプロトンと中性子の交互作用の理論に新生面を開拓した点にある」が湯川の理論が受け入れられるかどうかは今後の実験的研究を待たねばならず「早急に判断を下すことは不可能ではある」。


素粒子の交互作用に就て
(On the Interaction of Elementary partic

湯川秀樹

審査要旨

プロトンと中性子との交互作用の考察は原子核の研究の根底をなすもので非常に重要な問題であるが、此の問題とフェルミのβ崩壊の理論と聯関して次の如き困難な點が二三の人によつて指摘されてゐた。即ち「フェルミ」のβ崩壊の理論によれば中性子は或る確率を以つて陰電子及びニュートリノを放出してプロトンに變じ得るし、又逆にプロトンは陽電子と逆ニュートリノを放出して中性子に變じ得る。若すれば中性子とプロトンは陰陽兩電子及ニュートリノの場を媒介として交互作用を及ぼすことになる。然し此の考へに從つて交互作用の大さを計算すると非常に小さなものになり實驗的事實とは非常に異つた値を與へる。フェルミの理論中に含まれてゐる或る常數の値を適當に撰び交互作用の大さを實驗と一致せしめると一方β崩壞の週期が非常に早くなり實驗任任するやうな放射性原子の存在を説明

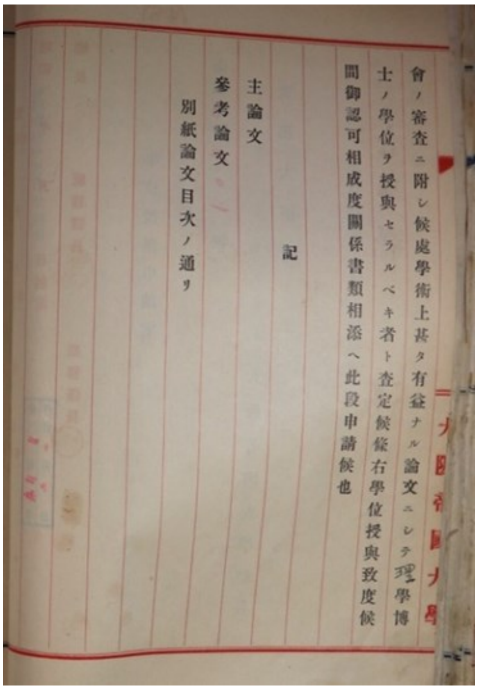
［学位4］ 菊池正士による審査要旨

しかし、最近宇宙線の研究で新粒子の発見が報告され、「湯川氏の仮説は新しく論議の的となり類似の理論が世界各国の学者によって提出さるる所を見ても湯川氏が同種類の学説の第一の開拓者であり、又その着眼点の妥当であったことをも裏書するものと云ひ得るであらう」、よって「湯川氏は理学博士の学位を受くる資格充分ありと認められる」と結論している。菊池の審査要旨は学位論文審査の手本でもある。

審査要旨は２月17日理学部教授会に提出され、教授会は出席者14名、同意者14名で湯川に理学博士の学位を授与すべきと議決する。報告書は理学部教授会議長眞島利行より帝国大学総長に送られる。その報告を受けて、大阪帝国大学総長楠本長三郎は文部大臣に学位授与申請を提出する。その学位授与申請案が［学位５］である。この申請案は２月24日に起案され、事務部の各段階での承認を経て２月25日に施行、発送された。総長名で出される書類文書は朱色線用紙で準備された。その後文部大臣の認可を受け、大阪帝国大学より湯川秀樹に1938年４月５日学位が授与される。その記録が冒頭に述べた学位授与者名簿に記されている。

これら1937年から1938年にかけての一連の記録文書が大阪大学アーカイブズに保管されているのは感慨深い。湯川の学位論文、学位申請書類、審査記録、事務手続書類、どれもこれもが歴史を語る。当時の大学、社会を蘇らせる。日本の文化史にとって貴重な史料である。

これらの史料は大阪大学が責任を持って保存せねばならないが、同時に、史料をデジタルデータ化して、一般の人々に公開してほしい。多くの人々と共有できてこそ史料が生きる。私は切にそう願う。

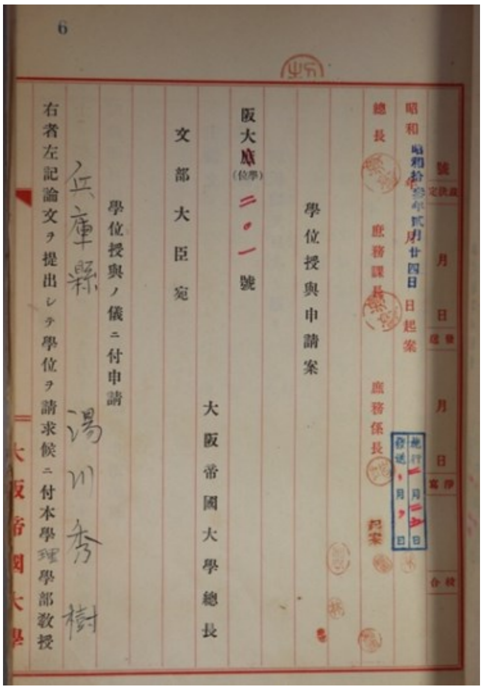

會ノ審査ニ附シ候處學術上甚タ有益ナル論文ニシテ理學博士ノ學位ヲ授與セラルベキ者ト査定候條右學位授與致度候間御認可相成度關係書類相添ヘ此段申請候也

記

主論文

參考論文

別紙論文目次ノ通リ


6

昭和拾參年貳月廿四日起案

總長　庶務課長　庶務係長

學位授與申請案

阪大庶(位學)二・一號

文部大臣宛

大阪帝國大學總長

學位授與ノ儀ニ付申請

兵庫縣　湯川秀樹

右者左記論文ヲ提出シテ學位ヲ請求候ニ付本學理學部教授

［学位5］ 学位授与申請案

大学創立周年記念展「街に生きる学問－学都大阪の礎・つなぎあう想い－」の開催

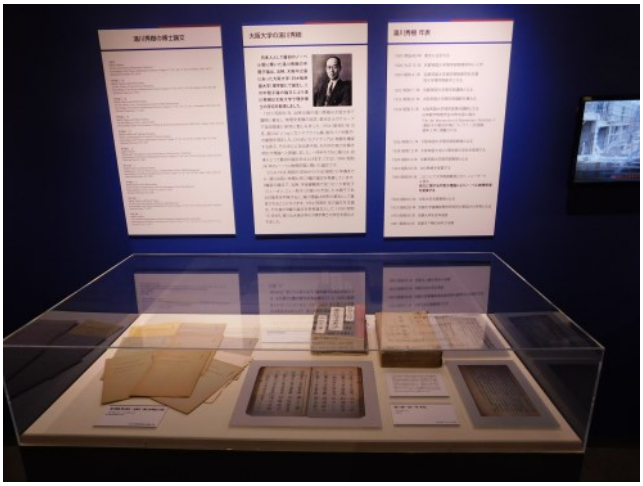
2021年は大阪大学創立90周年／大阪外国語大学創立100周年に当たります。それを記念して周年記念事業が開催されました。その一環として、総合学術博物館、豊中市主催で、大学創立周年記念展「街に生きる学問－学都大阪の礎・つなぎあう想い－」が総合学術博物館待兼山修学館で開催され、アーカイブズも共催しました。アーカイブズ所蔵資料は28点出陳しました。

当初の会期は、４月27日～８月10日の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、６月３日～８月10日（ただし、６月19日までは土曜閉館）に短縮されました。会期中の入場者は、823名でした。

サイン

１世紀前の大阪大学の前身校のコーナー

大阪外国語大学のコーナー



湯川秀樹の学位授与のコーナー

業務日誌(抄)（2021年3月～2021年8月）

2021年

・３月１日　閲覧業務を再開。
・３月５日　総合学術博物館教員、展覧会出陳資料調査のため来室。
・３月15日　「アーキビスト養成・アーカイブズ学研究コース」について国立公文書館とオンライン協議。
・３月22日　第14回アーカイブズ運営委員会を開催。
・３月24日　朝日新聞大阪本社から大阪帝国大学の創設経緯について照会。
・３月26日　大阪大学助産師同窓会から資料受贈。
・３月29日　千石会の40年史について相談を受ける。
・３月31日　『大阪大学アーカイブズニューズレター』第17号を刊行。大阪大学アーカイブズ編『アーカイブズとアーキビストー記録を守り伝える担い手たちー』（大阪大学出版会）を刊行。
・４月６日　総合学術博物館教員、展覧会出陳資料調査のため来室。
総合図書館から2000年以前のキャンパスの様子が記録されている映像の所蔵について照会。
・４月８日　施設見学者1名。
・４月12日　全学共通教育「大阪大学の歴史ー大阪大学を創った人達ー」開講。菅、「概観」講義。
・４月15日　アーカイブズ学講義（文学研究科）開講。
・４月16日　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大阪大学の活動基準に従い、学外利用を停止。
・４月19日　総合学術博物館に展示資料貸出。
・４月29日　菅、大阪大学総合学術博物館創立記念展「街に生きる学問ー学都大阪の礎・つなぎあう想いー」のオンラインミュージアムレクチャーで「阪大・外大の90年・100年を振り返る」講演。
・５月27日　学外から財団法人阪大微生物病研究会について照会。附属図書館から卒業生の履歴について照会。
・５月31日　菅、全学共通教育科目「大阪大学の歴史」で「大阪帝国大学の創設と理学部の設置」講義。
・６月３日　大学創立周年記念展「街に生きる学問ー学都大阪の礎・つなぎあう想いー」を総合学術博物館等と共催（８月10日まで）。
・６月８日　東北大学史料館と「アーキビスト養成・アーカイブズ学研究コース」について意見交換。
・６月14日　NHKエデュケーショナルから過去の教員について照会。東京大学文書館からコロナ禍における閲覧室の開室について照会。
・６月21日　学外者の閲覧室利用を再開。菅、全学共通教育科目「大阪大学の歴史ー大阪大学を創った人達ー」で「旧制高等学校から阪大共通教育へー大阪高等学校・浪速高等学校ー」講義。
・６月28日　菅、全学共通教育科目「大阪大学の歴史」で「戦争と大阪大学」講義。
・７月１日　特定歴史公文書等書庫の24時間空調を開始。
・７月２日　共創推進部社会連携課卒業生係から過去の食堂の写真について照会。
・７月19日　菅、全学共通教育科目「大阪大学の歴史」で「歴史を学ぶ、歴史に学ぶ」講義。
・７月26日　菅、全学共通教育科目「大阪大学の歴史」で「補足と試験」講義。
・８月３日　大阪大学混声合唱団から資料受贈。
・８月10～13日　夏季一斉休業のため臨時閉室。
・８月17日　アーカイブズ・マネジメント論講義（文学研究科）開講。

大阪大学アーカイブズ利用案内

・開室日
次に掲げる日を除く毎日
(1) 日曜日及び土曜日
(2) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
(3) 12 月 29 日から翌年の１月３日までの日

・利用時間
午前９時30分～午後４時30分

・利用請求の受付
午前９時30分～正午、午後１時～午後４時

大阪大学アーカイブズ構成員名簿

室　長　　高橋　明男（法学研究科・教授）
教　授　　菅　　真城（法人文書資料部門）

〈兼任教員〉

【法人文書資料部門】
瀧口　剛（法学研究科・教授）
三阪佳弘（高等司法研究科・教授）
藤本愼司（工学研究科・教授）
阿部浩和（サイバーメディアセンター・教授）
安岡健一（文学研究科・准教授）
中村征樹（全学教育推進機構・准教授）

【大学史資料部門】
菅　真城（アーカイブズ・教授）
飯塚一幸（文学研究科・教授）
田口宏二朗（文学研究科・教授）
廣田　誠（経済学研究科・教授）
松永和浩（適塾記念センター・准教授）

〈事務担当〉

大阪大学総務部総務課文書管理係

OSAKA UNIVERSITY ARCHIVES

大阪大学アーカイブズニューズレター　第18号

発行日　2021年9月30日
編集発行　大阪大学アーカイブズ
〒565-0871
大阪府吹田市山田丘２－３
吹田キャンパス 生命科学図書館４階
Tel. 06（6879）2421
Fax. 06（6879）2422
E-mail office@archives.osaka-u.ac.jp
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/facilities/ed_support/archives_room